



# 学校だより 神橋

令和元年5月31日  
横浜市立神橋小学校  
6月号

～ていねいに、続けること～

副校長 野村 賢司

神橋小学校に来て、2ヶ月、令和の時代が始まり、1ヶ月近く経とうとしています。この時代の変わり目に副校長として赴任することは、大変意義深く、神橋小学校と深い縁を感じます。初めての学校だよりを書くことにあたり、私が大切に感じていることを書かせていただきたいと思います。

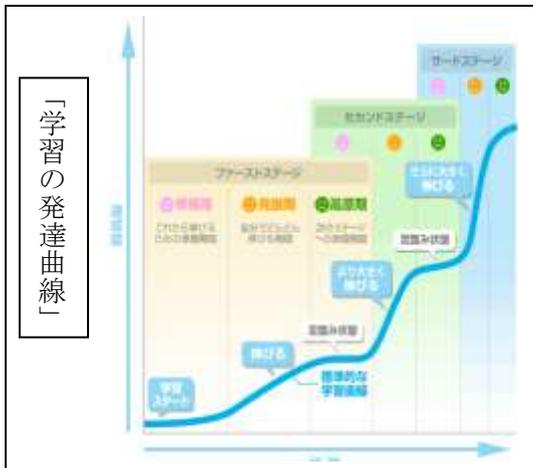
民間企業に4年、教師になり22年経つ私ですが、何事も物事に対して「ていねいに、続けること」が大切であると感じる時があります。

私が以前担任をしていたときのことで、学級目標を「ていねいに、続けること」とし、子ども達と一緒に学級生活を過ごしていたときがあります。

ある日のこと、一人の児童が、「先生、私、漢字テストで一度も100点を取ったことがありません。どうしたら100点を取れますか？一度は100点を取りたいんです！」と質問をしに来ました。

当時の私のクラスでは、漢字10問テストをしていました。その質問に対し、「漢字は、何度も書いて覚えることが大切です。毎日書き続けてください。」と返答しました。

その児童は、その日から毎日2時間、家庭学習で漢字練習をし、60点、70点の点数はとれるのですがどうしても100点を取ることができませんでした。ご家庭の方と連絡をとっていたので、学校帰りに家庭訪問をし、その児童の様子を見に行ったこともありました。私が行くと、一生懸命に漢字を何度もノートに書き続けていたためか、指には鉛筆のタコができていてとても痛そうでした。「先生、何で私は100点を取れないの？一生懸命にしているのに・・・」泣きながら私に話してきました。



その時、私は「学習の発達曲線」の話をして、例えを挙げながら話をしました。「コップに水を一滴ずつ入れて、その水がコップいっぱいになるには、相当の時間がかかります。でも、必ず水はいつか満水になり、コップから水があふれ出します。今、あなたがしている漢字練習も同じです。ていねいに、一つずつ書き続けるのです。そうすればいつか100点を取れる日が必ず来ます。」と言って帰って行きました。

それから、2週間後、漢字テストをしたときのことで、その児童は、初めて100点を取ることができました。その児童が嬉しそうに「先生、100点取ることができました。頑張って続ければ100点を取れるんですね。ありがとうございました。」と笑顔で答えてくれた児童のことを今でも思い出します。

私は、学習の成果というものは、「ていねいに、続けること」で上がるのだと思っています。学習を途中でやめてしまうと本当の実力を身につけることなく終わってしまいます。なぜなら、学習の成果は、進んだり、足踏みをしたりしながら大きく伸びていくからです。

私の好きな著者、齋藤孝さんの『教育力』の中で、「質的向上の変化は、量的積み重ねの果てに起きる」という一節があります。何事も、力をつけたり質を上げていったりするには、毎日の積み重ねが大事になってくるのでしょ。

一人ひとりの児童には、自分が得意なことや苦手なことがあるかと思っています。得意なことを更に伸ばしたり、苦手なことを克服してできるようにしたりすることも、「ていねいに続ける」ことで自分の可能性を伸ばしていくことができると考えています。

私自身も「ていねいに続けること」を常に思い、本校の教育活動を進めていきます。今後も、ご支援、ご協力の程よろしくお願いたします。